

平成 21 年度学校体育振興事業
「中学校武道必修化に向けた地域連携指導実践校」
研究報告書

がっこうめい 学校名	う と し り つ か く じ ょ う ち ゅ う が っ こ う 宇土市立鶴城 中学校
---------------	-------------------------------------------------

校長名：沖村徹

所在地：熊本県宇土市新小路町 1 5 1 番地

電話番号：0964-22-0140

地域の伝統芸能（太鼓【雨乞い太鼓】踊り）
に関する研究

I 研究実践校の概要

1 学校・地域の特色及び実態

本校は全校生徒 954 名（平成 21 年 5 月 1 日現在）の大規模校であり、今年で創立 60 周年を迎えた。その間卒業生を約 1 万 9 千余名輩出しており、県内でも伝統ある学校の一つである。運動部活動が伝統的に盛んであり、過去には全国優勝を果たした部活動もある。現在でも様々な種目において、県内はもとより九州、全国大会などで素晴らしい成績を残している。宇土市は、人口 38,375 人（平成 21 年 5 月 1 日現在）の都市であり、古くから城下町として栄え人情風俗が細やかである。文化財にも恵まれ、名所旧跡も多く、近年では轟水源が名水百選に選ばれ全国的に有名になった。

本校生徒の実態としては明るく活発な生徒が多い。昼休みなどはグラウンドや体育館で運動に親しんでいる光景が見られる。本校の保健体育における課題としては、体力の二極化傾向が挙げられ、運動が苦手な生徒に対しての手立てを大規模校としてどうしていくかという課題を抱えている。

2 学校の概要（平成 21 年 5 月 1 日現在）

	1 年	2 年	3 年	特別支援 学級	計	
学級数	8	9	9	3	29	
生徒数	男	154	150	170	7	481
	女	135	182	163	4	484

教員数 55 名（保健体育科 5 名）

武道・ダンスの授業の状況

領域；ダンス 領域の内容；フォークダンス

	1 年	2 年	3 年	特別支援 学級	計
配当時間	10	10	15	各年と異	35
担当教員数 (外部指導者)	1	1	1 (1)	1	4 (1)
生徒数	男	3学期実施のため未定		0	0
	女	武道（剣道・柔道）と選択		96	0

II 研究の内容及び成果等

【研究成果の要点】

- 地元の伝承された踊りに取り組むことで地元に対する誇りや伝統を知ることができ、意欲的に学習に励む姿が見られるようになった。また、地元の指導者を招聘し、本物の伝統芸能を習得することで単に技術の習得のみにとどまらず、深く地域を知るための学習にもなった。さらには太鼓踊りの生まれる背景となった歴史を学ぶことにもつながった。
- 生徒は地域の指導者から太鼓踊り独特のメリハリや情緒的な動きの部分の具体的なアドバイスを受けるので、単に動きを学習するだけではなく、美しい動きについて具体的に学習することができた。また、踊りの仕草の意味についての説明を聞くことができたので踊りの内容を一人一人がかみしめながらしっかりと活動に取り組むことができた。
- 学習カードの活用のみならず、個人成長カードを活用することで自己評価や教師の評価、観点別の目標や反省をわかりやすく示すことができた。次時の目標も掲げやすくなり、具体的な目標を持って授業に臨めるようになった。
- グループ学習を取り入れ、互いにアドバイスをすることで動きの中での気づきや踊りのポイントを共有し、より美しい踊りの完成へ向けての学習活動が活発になった。

1 研究主題等

(1) 研究主題

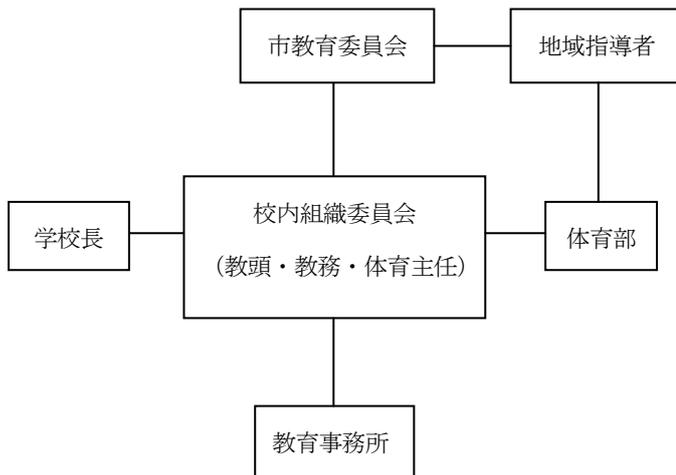
地域の伝統文化を理解し、主体的に学び合う
授業の展開

～地域指導者との連携を通じた授業の展開～

(2) 研究主題設定のねらい

- ① 地域の指導者との連携を通して、郷土の伝統文化の理解をより深めることができる。
- ② 伝統ある郷土の先人の知恵や取り組みを知ること、郷土の文化を尊重し、それらをはぐくんできた郷土を愛する心を育てる。
- ③ 自分たちの身近な地域のことに興味関心を持ち、主体的に授業に取り組む姿勢を育てる。
- ④ 学び合いを深めていくために学習カードや班活動を通じてコミュニケーションを図り、生徒一人一人が意欲的に学習活動を進めることができる。
- ⑤ 発表会を開催することで自分たちの取り組みの成果を振り返る場とし、さらには表現力を高める。

(3) 取組体制



市教育委員会及び教育事務所から指導助言をいただきながら校内組織委員会において取組を検討し、体育部において実践していくこととした。

(4) 主な取組

平成 21 年 度	<p>●11/10 ◇地域指導者との顔合わせ。事業内容の説明。指導内容の打ち合わせ。</p> <p>●11/17～30 ◇第1・2時【オリエンテーション】 ダンスの特性、学習の流れ、礼儀作法などを理解する。</p> <p>◇第3～5時 学習1：太鼓踊りの基礎・基本となる技能身につける 扇子1本取り 扇子2本取り 段ごとの動き</p> <p>●12/1～11 ◇第6～9時 学習2：グループで協力し、踊りを完成させる。 扇子2本取りでの場当たり（立ち位置）の確認 浴衣を身につけての練習</p> <p>●12/8 ◇第8時 授業研究会</p> <p>●12/15 ◇第10時 学習のまとめ ビデオ撮影 自己評価 事業の成果と課題について</p>
--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 具体的な研究課題

地域の指導者との連携を図り、生徒一人一人の学習意欲の喚起のために具体的な手立てをどのようにしていくか。

(2) 取組

① ダンス授業の単元計画の在り方

昨年度までは現代的なリズムのダンスを中心に表現活動（授業）を行っていたため、3年生での単元計画を新たに作成した。ダンスの時間をじっくりできるように他の領域との兼ね合いも考えながら年間計画を考えた。

② 地域の指導者と保健体育担当教員との連携の在り方

電話で連絡調整しながらミーティングの場

を設定した。ミーティングでは生徒の動きを地域指導者と共通理解を図りながら細かい打ち合わせをするようにした。また、教師側からも地域の指導者に対して生徒理解のための時間確保や生徒指導に関する連絡事項を伝達し、指導・支援が円滑に進むようにできる限りミーティングを実施するようにした。

③ 学習意欲を高めるための班活動と学び合い学習の工夫

次時の目標も掲げやすくなり、具体的な目標を持って主体的に授業に臨むための手立てとして、まず学習カードや個人成長カードを活用した。自己評価や相互評価、観点別の目標や反省など簡潔かつ具体的に示しながら毎時間活用するようにした。

さらにグループ学習を行い、互いにアドバイスをしたり、動きの中での気づきを共有したりしながら、踊りのポイントを具体化していった。

(3) 成果・課題

① じっくり学習できるような時間を確保するなど学習環境を整備することができた。次年度以降は全学年見通して学年の系統性を考慮し、整理しながら年間指導計画及び単元計画を作成するようになりたい。

② 地域指導者が生徒へ接しやすくなり円滑な指導・支援を進めることができた。生徒も素直に地域指導者の指導や支援を受け、学習活動に積極性が見られるようになった。

しかし、十分な打ち合わせをする時間が取れない時もあり、授業の前後に簡単な打ち合わせで済ませることもあった。したがって時間の確保がさらに必要である。

③ 動きのポイントを共有することで具体的な課題を把握し、目標を定めることができた。その結果、より美しい踊りの完成へ向けて生徒一人一人が意欲的になり、主体的な学習意欲を喚起することができた。今後も学習カー

ドのみならず、個人成長カードや相互評価を継続して取り入れていく必要がある。

3 研究成果の普及

地域の指導者を効果的に活用するためには人材の確保及び人材情報のネットワークが必要である。そのため市教育委員会を通じて地域の指導者についての情報提供を継続してお願いしている。また、本年度はダンスにおいて地域の指導者を活用してきたが、この研究をさらに生かしていくために武道においても活用できるようにしていきたい。例えば宇土市は伝統的に相撲が盛んであり、指導者も多数地域に在住している。また、本校でも相撲部があり、現在も多く優秀な人材を輩出している。今後は新学習指導要領における武道の必修化を見越しながら、さらには大規模校の特性も生かして、武道を3種目（柔道・剣道・相撲）実施していく予定である。その中で地域の指導者を活用できれば、生徒の学習活動もさらに活性化され、地域の特性を十分に生かした教育活動が展開できるものと考ええる。

また、今回の研究では年間計画・単元計画も作成した。その計画をさらに広げ、研究の成果を生かすために全学年において系統的に実施する予定である。今後はさらに取組を深めるために単元の開設時期等も考慮しながら意図的、計画的、組織的に実践していくようにしていかなければならない。

4 今後の展望

地域の指導者を活用することは、ダンス学習にとっても有効であり、今後も継続していくとともに学習効果を発揮できるものであると考ええる。

そこで、継続して地域の指導者を招聘して学習するためには時間の調整をしっかりとっていく必要がある。また、本校は時間割が変動的であるために地域の指導者に十分な配慮をした上で連絡調整を行わなければならない。

その他にも地域指導者と生徒、及び指導者との

人間関係を構築するため、オリエンテーションの時間を設けていかなければならない。地域の指導者は授業の時間だけしか生徒と接することがない。そこでより多くのコミュニケーションをとり、指導者の生徒理解、生徒の指導者理解を図り、円滑な学習活動が展開できるように取り組んでいきたい。

【資料：学習カード】

太鼓踊り

学習カード 3年()組()号 氏名()

A：とても良くできた B：まあまあできた C：あまりできなかった D：できなかった

	月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
項目	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
①コミュニケーション（友だちや先生に教えたり教わってできた）												
②模倣（細かい部分まで模倣してできた）												
③準備・片付け（自分で気づき進んで行動することができた）												
④安全（用具管理ができ、自分や友だちがケガをすることがなかった）												
⑤思いやり（ほめたり、励ましたりして進んで声かけを行った）												
⑥協力（進んで協力し、無駄な時間がなかった）												
⑦意欲（運動の特性に触れることができ、楽しかった）												
⑧一言感想												

【個人成長カード】

【単元計画】

個人成長カード（単元：太鼓踊り）

単元のまとめ 3年()組()号 氏名()

A：とても良くできた B：まあまあできた C：あまりできなかった D：できなかった

観点	単元の目標（評価の観点）	自己	教師	自己	教師
技能	踊り方の特徴をとらえ踊ることができる。				
	メリハリのある動きや美しさを表現して踊ることができる。				
関心	楽しく踊りに取り組み、自他の個性や表現を認め合おうとしている。				
	準備や後片付けなど自分の役割を果たそうとしている。				
意欲	作品づくりにおいて仲間と協力して取り組もうとしている。				
	体調の変化に気を配り、用具や練習場などの自他の安全に留意しようとしている。				
知識	踊りの名称や用語を理解し、言ったり書き出したりしている。				
	作品づくりにおいて表現の仕方を理解し、言ったり書き出したりしている。				
	踊りを通じて交流する方法があることを理解し、言ったり書き出したりしている。				
思考	仲間の良い動きを見つけている。				
判断	練習や発表会において、安全に仲間と活動できる場を見つけている。				

学習内容・評価

時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
学習内容	【初日～2日】		【学習1】			【学習2】				学習のまとめ ビデオ撮影 自己評価	
	〇太鼓踊りコミュニケーション		〇太鼓踊りの基礎・基本となる技能を身につける			〇グループで協力し、踊りを完成させる					
			・扇子一本取り			※6時間目：二本取りの入りから					
			・扇子二本取り			場当たり（位置確認）					
			・段ごとの動き			※7・8時間目：二本取り最後まで					
						※9時間目：浴衣を着て練習					
	技能			○	◎			◎	◎		
	態度		◎		○	◎		○	○		
	知識	◎	○				○				◎
	批判			◎	○		◎				◎